

会 議 録

会議の名称	第8回小金井市公共施設在り方検討委員会
事務局	企画財政部企画政策課
開催日時	令和7年12月26日（火）9時30分から11時00分まで
開催場所	小金井市役所 第二庁舎 801会議室
出席者	委員長 市古 太郎 副委員長 讃岐 亮 委員 増田 亮 中谷 行男 村井 芳久 小西 由華 谷越 瑞希
欠席者	委員 土山 希美枝 梅根 拓也 鈴木 浩司
事務局	庁舎建設等担当部長 高橋 啓之 公共施設マネジメント推進担当課長 郷古 陸 企画政策課企画政策係主任 山下 真優 委託事業者 パシフィックコンサルタンツ(株)
傍聴の可否	○可 ・ 一部不可 ・ 不可
傍聴者数	0人
会議次第	1 開会 2 議事 小金井市公共施設在り方・再編方針（素案）について 3 その他 次回の開催日について 4 閉会
会議結果	別紙のとおり
発言内容・ 発言者名 （主な発言 要旨等）	別紙のとおり
提出資料	資料1 小金井市公共施設在り方・再編方針（素案） 参考資料 公共施設在り方検討委員会の検討経過 参考資料 児童・生徒数の実績

	参考資料 これからの公共施設が目指すビジョン（イメージ）
その他	

市古委員長

本日は、お忙しい中、ご出席いただき誠にありがとうございます。

本日、土山委員、梅根委員、鈴木委員から欠席の連絡が入っておりますのでご報告いたします。

定足数につきましては、小金井市公共施設在り方検討委員会設置要綱第6条にて、委員の2分の1以上の出席を必要としております。現在10人中7人ご出席をいただいておりますので、本会議は成立していることをご報告申し上げます。

それでは、まず配布資料について事務局より説明をお願いいたします。

郷古公共施設マネジメント推進担当課長

それでは、配布資料につきまして説明させていただきます。本日配布しました資料は、「資料1 小金井市公共施設在り方・再編方針（素案）」、参考資料として「公共施設在り方検討委員会の検討経過」、「児童・生徒数の実績」、「これからの公共施設が目指すビジョン（イメージ）」を配布しておりますので、ご確認いただければと思います。

（委員確認）

郷古公共施設マネジメント推進担当課長

大丈夫でしょうか。ありがとうございます。議事で使用する資料につきましては、後ほど説明させていただきますが、参考資料、「公共施設在り方検討委員会の検討経過」につきましては、これまでの検討経過を前回同様まとめておりますので、詳細は資料をご覧ください。

配布資料の説明につきましては以上です。

市古委員長

ありがとうございました。議事に関する資料については、議事において取扱いとさせていただきます。参考資料については、前回同様、これまでの検討委員会の検討経過としてご活用ください。

それでは、議事に入らせていただきます。「小金井市公共施設在り方・再編方針（素案）について」事務局より説明をお願いします。

郷古公共施設マネジメント推進担当課長 それでは、「小金井市公共施設在り方・再編方針（素案）」をご覧ください。前回の検討委員会でお示ししました素案につきまして、皆様からいただいたご意見等を踏まえて修正等をさせていただきました。

前回の検討委員会で素案全体の内容については説明させていただいておりますので、本日は前回から修正等を行ったところを主に説明させていただければと思います。

それでは、2ページをご覧ください。方針策定の趣旨の部分ですが、青色の文字の部分を今回修正等させていただいております。前回の検討委員会におきまして土山委員からいただきました「冒頭で、検討委員会の位置づけを整理するとともに、どのような方向性が示され、何がポイントか概要が示されていると分かりやすいのではないか」というご意見、それから、讃岐副委員長からいただきました「総合管理計画としてビジョンに不足があるという事務局の発言については、2ページにそのまま記載してはどうか」というご意見を踏まえまして修正をしているところです。内容につきましては資料をご覧くださいと思いますが、これまでの課題、検討委員会について、そして6つのビジョンについて記載をしております。

続きまして、4ページをご覧ください。方針の構成の部分です。黄色の文字の部分と青色の文字の部分を修正等しておりますが、こちらはその後出てきます各章の内容の修正等に伴いまして文言の修正等を行ったものです。

それから、6ページです。本市の現状としまして、人口についてですが、前回の検討委員会で鈴木委員からもご意見をいただいておりますが、第5次基本構想・後期基本計画（案）が公表されまして、人口ビジョンが示されましたので、将来人口推計について内容を反映させております。

それから7ページの下側をご覧くださいと思いますが、この後のページにも同様のものが入ってきますが、注記として文言の説明を入れさせていただきました。

次に12ページです。児童・生徒数の推移です。こちらにつきましては増田委員から「可能な限り新しいデータに更新していただき

たい」とのご意見をいただいているところです。今回は、前回同様の説明で恐れ入りますが、現在、教育委員会の庶務課にて学校施設長寿命化計画の改定作業を行っておりまして、今後、パブリックコメントまでに最新のデータを提供していただく予定です。本日時点では、令和3年の計画における内容としておりますが、今後更新をさせていただく予定です。なお、将来推計の部分はございませんが、参考資料「児童・生徒数の実績」、こちらは令和7年度までの児童・生徒数の実績を参考までにまとめたものですので、ご参考にいただければと思います。

次に、20ページ、21ページをご覧ください。公共施設の在り方の見直しと再編の必要性についてです。こちらは、市古委員長からいただいた「課題認識をビジョンの前で明確に打ち出してはどうか」というご意見、それから、小西委員からいただきました「2章から3章の流れに唐突感がある」というご意見を踏まえて新たに項目を追加させていただきました。内容としては人口等の現状と公共施設等総合管理計画で整理されている課題等を踏まえてビジョンの必要性、それからエリアごとの機能再編の必要性について説明をさせていただいております。

また、21ページの下側には本方針に関連する内容についてコラムという形で紹介する内容を追記したところです。

次に24ページをご覧ください。これからの公共施設のビジョンです。ページの下側にコラム2として市民ワークショップの内容を追記しているところです。

続きまして26ページのビジョンのイメージについてですが、讃岐副委員長から「イメージ図が追加されると良いのではないか」とのご意見をいただいておりますので、今後イメージ図を入れる方向で検討させていただいております。現時点のイメージ図の参考としまして、参考資料「これからの公共施設が目指すビジョン（イメージ）」、このようなイメージ図を想定して作業を進めさせていただいておりますので、参考までにご確認いただければと思います。

次に27ページをご覧ください。エリア別の公共施設の再編です。こちらにも青色の文字のところを修正等しておりますが、四角の枠の

中、項目の順番として、交流・創造の拠点の内容と地域コミュニティエリアの内容の順番を入れ替え、地域コミュニティエリアの内容を①とし、交流・創造の拠点の内容を②としているところです。

それから、28ページ、地域コミュニティエリアにおける公共施設の再編です。前回の素案では、内容として5つのエリアの区分けについて、それからエリアにおける施設配置の考え方を記載しておりましたが、施設配置の考え方につきましては、第4章に内容を移した関係で、今回の素案では5つのエリアに区分けをしたという内容のみとしているところです。

続きまして、34ページです。交流・創造の拠点における公共施設の再編の部分です。青色の文字の部分が修正等したところになりますが、中谷委員からいただきました「福祉のサービス提供拠点としての役割は新福祉会館に求められていないのではないか」とのご意見を踏まえ、前回の素案で記載がございました「また、新庁舎・（仮称）新福祉会館は、行政サービス・福祉サービス提供の拠点として施設の有効活用を図ります。」という文言を削除しているところです。

それから、35ページです。新庁舎・（仮称）新福祉会館周辺についての部分ですが、こちらは鈴木委員より「新庁舎・（仮称）新福祉会館の整備が中止となった場合、この素案の内容自体が大きく変わってしまうのではないか」といったご意見をいただいているところです。現時点では入札の不調の結果を踏まえ、今後の方向性を検討しているところであり、現時点では「今後の事業進捗を踏まえ表現を調整します」とさせていただいております。こちらにつきましてはパブリックコメントまでに市の方向性が定まるか現時点では確定はできませんが、パブリックコメントまでには一定の文言の修正等を行っていきたいと考えているところです。

35ページの下側にはコラム3として職員検討会の内容を記載し、36ページにはコラム4としまして市民ワークショップの結果②を追記していますので、それぞれご確認いただければと思います。

続きまして、38ページをご覧ください。公共施設の再編の基本的な考え方です。前回の素案では、公共施設の再編の方向性として、

市民サービスの向上及び持続可能な行政サービスを実現することを再編の方向性として目指すこと、ビジョンとエリアに着目しながら再編をしていくといった内容を記載しておりました。先ほど説明させていただきました前回の素案の第3章で記載しておりました、エリアにおける施設配置の考え方の内容を第4章に移したことで等を踏まえまして、内容を見直ししているところです。

具体的な内容としましては、各施設の個別対応による再編を行うのではなく、エリアにおいて必要な機能を整理した上で、各個別施設の在り方を検討するエリア最適化を目指すことで、施設総量の最適化とサービス水準の維持向上を図り、ビジョンの実現に向けた持続可能な公共施設体系の構築を進めることという内容にしております。

その方向性として、39ページにエリア別の再編の方向性として地域コミュニティエリアにおける再編の方向性、交流・創造の拠点における再編の方向性を記載しております。

まず、地域コミュニティエリアでは、すべてのエリアに同じ機能を一律に配置するのではなく、地域ごとの実情に応じて必要な機能を整理し、適切な配置を目指すこととしております。このことを実現していくには、行政が保有する資産の他、地域の資源を活用させていただくことも必要になってくるかと思っておりますので、そのような地域資源の活用についても検討していく必要があるかと考えています。また、集約・複合化については学校施設に限らず、同一エリア内での集約・複合化を目指すこととしております。

交流・創造の拠点につきましては、前回の検討委員会でお示しをしている内容と文言は変わっておりますが、内容としてはほぼ同じ内容になっておりますので、その旨説明させていただきます。

次に、同じく39ページ、集約化・複合化の方向性についてです。こちらについても今回新たに追加している内容です。

こちらは公共施設の再編の手法の一つである集約・複合化について方向性を整理することで、今後の検討に寄与するものとして追記をしたところです。内容としては、集約・複合化については、利用者層や活動内容に親和性のある施設を対象として、機能の相互補完

や連携によって新たな利用価値を生み出すことを方向性として定めています。

それから集約・複合化の判断の観点としましては、市民の日常利用を支える利便性やアクセス性が確保されているか、利用者の安全性が十分に確保されているか、地域活動や世代間交流の促進につながる構成となっているか、災害時の避難や支援活動に資する防災機能が強化されるか、維持管理費や更新費用の縮減・平準化に寄与し、将来にわたり持続可能な運営が可能かの観点を示させていただいております。

続きまして、40ページ、学校施設についてです。

修正等した部分は青色の文字の部分となりますが、重複している内容の整理を行ったことによる修正をかけているところが1点ございます。それから前回増田委員からいただいた「既にコミュニティ・スクールに全校が指定され、地域とともにある学校づくりは行っているため、表現を見直してほしい」とのご意見を踏まえまして、コミュニティ・スクールの記載の部分につきましては、創造的な活動がより一層展開されるようにといった内容に修正をさせていただいております。

続きまして、41ページです。他の公共施設との複合化による想定される効果の⑤、効果的・効率的な施設整備の2行目の部分でございますが、前回の素案では「既存学校施設を活用したりすることにより、域内全体の整備費用の削減や支出の平準化を図ることができます。」と記載しておりましたが、讃岐副委員長からいただきました「域内全体の整備費用の削減、支出の平準化というところがもう少し柔らかい言葉で伝わりやすくなると効果的・効率的な施設整備の持っている意味が、学校を圧迫するというものではないように伝わるのではないか」というご意見を踏まえまして、「域内全体」の文言を削除しているところです。

42ページをご覧ください。他の公共施設との複合化における留意点としまして、新たに③、学校と地域の価値向上につながるこの項目を追加しているところです。こちらについては、委員の皆様からいただきました学校施設としてマイナスにならないような複

合化であるべきとのご意見等を踏まえまして追加をしたところです。

また、ページの下側には市古委員長からご意見いただいております。また、コミュニティ・スクールについてコラム5として記載を追加しているところです。

それから、44ページをご覧ください。今後の検討の進め方です。検討体制の部分ですが、村井委員からいただきました「イメージ図のうち施設所管課の職員を複数人にしたほうがよいのではないか」というご意見、それから、市古委員長からいただきました「市民参加についても併せてイメージ図に入れたほうがよいのではないか」というご意見を踏まえましてイメージ図を修正しております。

45ページ、検討の進め方ですが、前回の素案では想定される検討内容として検討項目と検討の流れについて記載をしておりましたが、内容の見直しを行い、検討の進め方、公共施設再編の検討方法として再度整理をさせていただきました。

想定される今後の検討としては、まず庁内において施設類型ごとの課題対応の庁内検討を行い、ステップ2としてそれらを踏まえてエリアの全体最適の庁内検討、その後ステップ3で市民参加による検討を行い、内容を深化させることを図り、ステップ4では実現に向けた事業性の検証を再度行った上で、ステップ5で柔軟な見直しを行っていくとしているところです。

続きまして、46ページをご覧ください。市民・関係者との連携、民間活力の活用と官民連携の推進の順番を前回の素案から入れ替えております。市民・関係者との連携については文言を一部追加等しておりますが、内容としては前回とほぼ同様の内容としております。

民間活力の活用と官民連携の推進につきましては、讃岐副委員長から「もう少し具体的に記載するなどしてもよいのではないか」というご意見を踏まえまして文言を修正等し、効率的で魅力ある公共サービスの提供を目指すといった文言を追加したところです。

最後に参考資料です。48ページをご覧ください。公共施設在り方・再編方針の検討経緯の部分になりますが、小金井市公共施設在

り方検討委員会の下に、内容を分かりやすくするため検討委員会の説明文を追記しております。この説明文の追記につきましては、49ページの市民ワークショップの部分、それから52ページの職員検討会の部分、54ページの各課ヒアリングの部分についても同様に説明文を追記し、市民の方に分かりやすくするような内容にしたところでは、

それから、同じく54ページのヒアリング結果の部分につきましては、土山委員からいただきました「次ページの結果とのつながりが分かりやすくするために注記でその旨を記載したほうがよいのではないか」というご意見を踏まえて注記を追加したところでは、

最後に、61ページから記載をしております、エリア別建築年別公共施設の一覧につきましては、改めて内容の確認をしたところ建築年に誤りが多数ありましたので、青色の文字の部分はその修正をさせていただきます。

説明が長くなりましたが、説明は以上です。

市古委員長

ありがとうございます。それでは、この素案に対して皆様からご意見、ご質問をいただければと思います。

それから、本日、パブリックコメント前の最後の検討委員会ということ踏まえて、事務局にてスクリーンを用意しておりますので、文言の修正等のご意見がありましたら、具体的に内容をご指摘いただければありがたいと思います。

それでは、どなたからでも結構ですので、よろしく願います。

中谷委員

12ページ、13ページあたりの図表のところ、出典のところに「小金井市学校施設長寿命化計画（令和3年3）」と切れてしまっている、これは誤記だと思います。その箇所が15ページや、16、17ページに散見されますので、修正してください。

それから、注記の用語の説明を入れているところが増えていますが、本文を見るときに、例えば19ページを見たときに、4と5でサービス・機能を集約化・複合化を説明している注釈が入るの

ですが、ここで気になるところが、この数字は何だろうと思って本文を見つけにいくと、結構見つからない。それで、集約化とか複合化という固有名詞のところの下線を引くと目が行くと思うので、そのようにして、特に言葉を強調するという形にも見えてしまうのですが、差し障りがないようであればそのようにしていただいたほうが良いかと思いました。

讃岐副委員長

中谷委員のご意見に関連してですが、これは私なりの提案ですが、本文が主たるものなので、注記についてはあくまでそれを補うという位置づけと考えると、下線を引くことはあまり目的に沿った効果はないのかと思います。ただ一方で、下の注記に目を止めたときに、それがどこかというのが分からないのは全くおっしゃるとおりで、例えば4は「集約化」という言葉をもう1回書いて、それがサービス・機能がとつなげてあげることで、無理に本文を探さなくても良いという、そのような方法もあるかと思いましたが、いかがでしょうか。

中谷委員

強調という意味では全くご指摘の通りだと思います。ビジュアル的には、「注1」「注2」という形のほうが、馴染みがあるかと思い、あまり修正をかけずにやれる方法はないかという形で思ったところでしたので、讃岐副委員長のご意見を踏まえて事務局にお任せで私は問題ないと思います。

郷古公共施設マネジメント推進担当課長

ありがとうございます。検討させていただきます。

市古委員長

私から数値の確認ですが、12ページの児童・生徒数の推移及び将来予測、それからお配りいただいた参考資料の実績、今後の推計値が示されていないのでどのように捉えればよいかと思っています。令和3年度の見込みでは、令和10年に9,504人と見込んでいますが、令和7年の8,639人の実績から見て9,504人まで到達するかどうかというあたり、何か知見はございますか。

郷古公共施設マネジメント推進担当課長 教育委員会の庶務課からデータを提供されていないため、明確なお答えは難しいですが、今回お示ししました人口ビジョンをご覧いただきますと、令和7年度をピークとして、市の総人口は減少していくという傾向を踏まえますと、恐らくですが、今回令和3年に見込んでいる9,504人というところまでは到達しないのではないかという考えです。いずれにしても教育委員会の庶務課からのデータ提供後、今後反映させていただきます。

市古委員長 それからパブリックコメントもしくはパブリックコメント後の最終版でも結構ですが、概要版は作る可能性はあるのですか。

郷古公共施設マネジメント推進担当課長 概要版は作成することを考えております。

市古委員長 分かりました。それでは、ぜひ概要版には25ページの目指すビジョンの6つを前面にといいますか、きちんと伝わるような形で検討していただくのが良いかと思えます。

小西委員 あくまでご提案として言いたいのですが、コラムという形で市民ワークショップ、職員検討会の結果概要を載せていただいています。これを踏まえてビジョンを作ったという順番かと思えます。そのようなことからすると、市民ワークショップのコラム4の部分などは後ろのほうに出てきていて違和感があります。時系列的にはこのようなものを踏まえて出てきたビジョンという順番ですから、個人的にはビジョンの前の部分にこのような検討結果の概要を集約していただいた方が繋がりが良いかと思えます。一方で、コラムという形で載せているので、ボリューム感なども考えると、全ての内容を載せることは難しいので、概要をまとめられるという利点は今の形のほうがあるかと思えます。どちらが良いかは事務局にお任せできればと思いますが、個人的には少し分かりにくくなっているかと思えました。

郷古公共施設マネジメント推進担当課長 コラムの入れ方として、コラム2のどこ

ろはおっしゃる通り、ワークショップ等の内容を踏まえてビジョンを作成してきましたので、この位置に置いています。36ページのワークショップの結果については、同じワークショップではあるのですが、こちらは地域コミュニティエリアや交流・創造の拠点との関連性を踏まえてこの位置に置いています。

谷越委員

私はこのような会議に出るのが初めてで分かっていないのですが、今回、公共施設が目指すビジョンを決め、それは今後評価をしていくものですか。というのも、この6つをビジョンとして掲げていますが、これはすごく好意的に見ると、既に達成されているのではないかと捉えられるのですが、今後どのように扱っていくものなのか。

郷古公共施設マネジメント推進担当課長

まず、ビジョンについては、公共施設等総合管理計では示されていない部分を補完するために作成してきたものと認識しております。これまで公共施設等総合管理計画を推進させていこうとしていたが、個別検討の前提となる全体方針や判断手法が明確ではないことから課題があった関係で、今回改めて公共施設を再編するために今後の公共施設はどうあるべきかということ、整理してきたものです。

見直しや評価については、毎年、施策評価や事務事業評価を行う行政評価を実施しています。また、5章でお示した検討体制の推進本部、市長、副市長、教育長、部長職で構成されますが、この推進本部で進捗状況を諮りながら進めていく形になるかと思います。

谷越委員

分かりました。ありがとうございます。

小西委員

今の谷越委員のコメントに関連して、私も同じようなことを少し思っていました。24ページにビジョンの説明があり、「これからの公共施設が目指すビジョンの実現に向けて」とあるのですが、ビジョンの実現が目的だったのかなという疑問があります。公共施設を再編していかないと老朽化などに耐えられないところがあり、公共

施設を再編したいというのが目的だったような気がするのですが、それをやみくもに進めるのは違うから、どのような方針で考えていくかというところに、このビジョンを常に伴わせていきたいということではないかと思いました。ビジョンが実現するのはいつなのかということがこの表現を見ていると疑問に思いました。

村井委員

今のご意見に関連して、最後の進め方のところですが、いつまでというのが確かに抜けていると思ひ、冒頭の財政のところはかなり厳しいことが書かれているにも関わらず、あまり危機感が感じられない印象です。もう少し進め方の中に、今このような財政状況で、これだけ老朽化が進んでいるので、いつまでにここは決めなければ危ないですよみたいな、そのような危機感を煽るわけではないですが、こう進めていきたい市側の想いがここにあってもいいのかと思います。

なぜならこのような財政で、現状では、現在要している工事請負費の約5倍の更新費用がないと維持管理できないのですという話ではないですか。であれば、このビジョンに基づいていつまでに、ここがデッドラインですくらいのつもりで進めていって、市民の皆さんも協力してくださいというように持っていくような文言があってもいいのかと思いました。

讃岐副委員長

関連してコメントいたします。決して市の擁護をするわけではないのですが、これは例えば組織の経営を考えたときに、経営の方針と、それからこれを具体的にどうやっていくかという計画と恐らく2本立てで考えていらっしゃるのではないかと思います。今回はあくまで方針なので、具体的にいつまでに何を達成するということまで踏み込まないというスタンスなのではないかと個人的には捉えています。

ずっとこのディスカッションの中で出てくる公共施設等総合管理計画というものが、恐らく立てつけ上は計画に相当するものだから、そちらに書かれるべきであり、書いてあるという前提でディスカッションしていたと思うのですが、ただ一方で皆様のご意見を聞

き、かつ公共施設等総合管理計画を見ますと、計画年度は示されているものの、いつまでにいくらとか、いつまでに何を達成するということところまでは踏み込めていないのが現状かと思います。だから、仮に踏み込めていたとしたら、それをきちんと受けた表現に改めるべきだと村井委員の先ほどのご発言を踏まえて思いますし、そこでまだまだ足りていないということであれば、そのような課題意識をもしかしたら踏み込んでこちらに書いておいても良いかもしれないです。

郷古公共施設マネジメント推進担当課長 讃岐副委員長がおっしゃるとおり、今作成している素案は方針の位置づけであり、計画的なものとして策定されるものではありません。一方で、今の公共施設等総合管理計画に、いつまでに何をやるかと書いてあるかと言われると、そこまでは明記されていないところがあります。優先順位を今後つけて取り組んでいくことについては、45ページのところで「庁内検討」として記載させていただいておりますが、老朽化の状況等を踏まえて今後優先順位をつけて取り組んでいくこととなります。ただ一遍に全部の検討を行うことは難しいので、順番に取り組んでいくということが現状の考え方です。

ご指摘いただいているスピード感といいますか、スケジュール感がまだまだ弱いというのはおっしゃるとおりかと思いますが、公共施設等総合管理計画の課題として、各施設の在り方の検討がなかなか進んでいないという状況を踏まえ、検討を進めていきたいという考えです。ご意見をいただきました財政等の課題も踏まえながら今後考えていかなければいけないという認識は持っているというようにお答えさせていただきます。

増田委員

まずはコミュニティ・スクールについての記述内容を含めて、改善、プラスの表記に変わっていることに本当にありがたいと思っています。事務局の皆様のご短時間でのご努力に敬意を表します。

今の話の流れでお話ししますと、財政が厳しいという前段がありながら、後段がどれだけ財政にとってプラスになるかという表現が

やや弱いという視点で見たときに、41ページの(1)他の公共施設との複合化による想定される効果の⑤について話します。①から④についてはタイトルに合わせた説明がなされています。例えば①は高機能化・多機能化とタイトルにあり、1行目に高機能化・多機能化ということですから、タイトルを受けての説明があります。しかしながら、⑤はタイトルに「効果的・効率的な施設整備」とありますが、記載内容を見ると、むしろ最後に書かれている「整備費用の削減や支出の平準化を図ることができます」という点をタイトルに示すべきではないかと感じました。

また、⑤のタイトルをそのまま「効果的・効率的な施設整備」とするのであれば、何をもって効果的・効率的と言っているのかについて、もう少し説明を加える必要があると思います。

財政が厳しい中で、「こういうふうにしたほうがいいですよ」ということを示したいのであれば、「整備費用の削減や支出の平準化」をタイトルとして、ストレートに出すなどの工夫も必要なのではないかと思います。

前段で「こんなに厳しい状況があるよ」と示しているのですから、それに対して「このような良いことがあるよ」と、両者セットで、できればフィフティ・フィフティぐらいのバランスで示していかないと、「大変だ、大変だ」と前段で言うおきながら、何となく最後がもやもやとして終わってしまうのは、どうなのだろうという印象を持って読ませていただきました。

大きく変えるのは難しいと思いますので、例えばタイトルを合わせるなど、①から④に⑤も合わせていくというのも1つの方法ではないかと思います。以上です。

市古委員長

全くそのとおりかと思います。41ページの⑤のタイトルは説明文と対応するようにご検討いただければと思います。

讃岐副委員長

今の増田委員のご発言に関連してですが、私も同じところにチェックを入れていて、どう発言しようかなと思っておりました。タイトルと内容に少し乖離があるのではないかと思います。

私の視点としては、仮に「効果的・効率的な施設整備」を生かそうとするならば、おっしゃるとおり、評価をどうするのか。この効果的・効率的というのは何をもってそう言うのかという視点が必要であって、そのときに考えるべきは、整備費用の削減、支出の平準化を図ったことで、結果的にお金の余力が生まれて、それが従来やっていただけではできない施設なり、あるいはソフトの部分に投資できるとか、これが仮に学校を中心とした複合化なのであれば、教育にしても、複合化されるその他の機能にしても、もう少し別の角度からお金を投じることができるところでもって初めて効果的・効率的と言えるのではないかと、そのような視点もあるかと思いました。そこまで書かないと今の時点では乖離があるので、増田委員がおっしゃったような「整備費用の削減や支出の平準化」と見出しを書くか、仮にこのままであれば内容をもう少し踏み込んだ表現に改めるべきかと思いました。

谷越委員

財政の不安があるというところからまずスタートして、学校の複合化に移行していく、そして想定される効果、今の問題点としては35人学級への対応に向けていきますということが書かれています。財政不安から入っているので、それが不安要素になりますが、今抱えている問題はもっと沢山あるので、学校施設の対応はそれらをきっちりやっていくという意味で、現在の問題を具体的に書いたほうが読み手に対して安心感があるのではないかと思います。これだと35人学級への対応のみ行えば複合化に向けていってしまうのではないかと不安を感じてしまう印象です。

市古委員長

そのあたりは本文でいくつか分散して受けているような印象を個人的にはしていたのですが、谷越委員のご指摘について何か事務局の方で補足いただけますか。

郷古公共施設マネジメント推進担当課長

まず、課題は35人学級への対応だけではないということがあると思います。施設の老朽化の視点というと、雨漏りもしていますし、トイレの改善もございますので、そのよう

なことをどこまでこの方針に書くかというところはあるのかとは思いますが。

先ほどの説明でもお話をしましたが、教育委員会の庶務課にて現在、学校施設長寿命化計画の改定作業を行っていますので、学校施設が抱える課題等の詳細については、そちらにて整理等されるものかと考えております。それから、40ページの3段落目、学校施設長寿命化計画、令和3年3月策定と書いている部分がありますが、ここの内容についても学校施設長寿命化計画の改定により内容に変更があれば反映させる予定です。学校施設の課題の詳細までこの方針に記載することとなりますと、学校の個別計画になってしまいますので、バランスを取りながら対応していく必要があると考えております。

小西委員

40ページですが、ここでは集約・複合化の方向性を説明した上で、「次の観点を総合的に考慮しながら判断します」ということでポイントを挙げていただいています。この部分が25ページで示したビジョンと微妙に近いけれど一致はしていないというところがもやっとするところで、ここはビジョンをそのまま引き継いで、そのビジョンを踏まえたものであるということが伝わったほうが良いのではないかと思います。恐らく事務局の中には何となくビジョンの刷り込みがあったからかなり近いところでまとめていただいているのだと思うのですが、ここで微妙に違うものが出てきていたりすると、これまでの議論は何だったのかということになってしまうのではないのでしょうか。ここは対応づけを考えていただいたほうが良いかと思いました。

郷古公共施設マネジメント推進担当課長 事務局の考えとしては、39ページの1-2、集約化・複合化の1行目に、ビジョンを踏まえた上で考えなさいというところは触れさせていただいた上で、目指すビジョンと集約・複合化の観点が一致するのかどうかというところは、例えば2番目にある「利用者の安全性が十分に確保されているか」というのはビジョンにないのですが、ただ集約・複合化の観点、特に学校

の観点で行くと、子どもたちの安全を確保する集約・複合化というのは外せないものとなります。集約・複合化の観点と6つのビジョンの内容は、似てはいるのですが、同一になるものとは考えておりません。

小西委員

ビジョンとの対応という点で言いますと、ビジョンに出てきていない文言で個人的に気になるのが「世代間交流」というフレーズです。ビジョンの中では多世代とか世代間ということは言っていないので少し気になるところです。ここに世代間交流を入れるのであればビジョンにも入っていないとおかしいのではないかと思いますし、この直後に学校施設について言及しているので、学校施設がその場として利用されるということに懸念を覚える市民もいるのではないかと感じました。

中谷委員

ビジョンの①、②のところに多世代とか、そのような言葉を補記しないと、確におっしゃるとおり、合わないと思います。

村井委員

44ページ、45ページの流れですが、検討の進め方があり、1-1で体制はこうですよ、1-2で進め方はこうします、1-3で方法について論じられているのですが、なぜか1-4でいきなり市民・関係者との連携とか、1-5で民間活力という内容があります。例えば市民参加はステップ3に入っているし、民間との連携もステップ4に入っているのではないのでしょうか。

郷古公共施設マネジメント推進担当課長　　まず、市民・関係者との連携の部分になりますが、本市においては市民参加条例という条例があり、多様な市民の意思を市政にいかし、市民本位の市政運営を円滑に進めることを条例の目的としています。それから公共施設等総合管理計画においても市民参加については記載がありますので記載をしております。

それから、民間活力のところにつきましても、今後の公共施設の再編は我々行政だけで進めていくのではなく、民間活力を活用する

ことについては同じく公共施設等総合管理計画でも記載がありますので記載をさせていただいております。

おっしゃるとおり、ステップの中で記載されている内容でもありますので、こちらも記載をするか悩んだところですが、改めて記載した方がいいのではないかと考え記載させていただいたということです。

村井委員

この章に入れるか、別立てでやられるほうが良いかなと思います。プラスアルファして言うと、ステップ1、2、3、4、5というのがもう少し図解化されているというか、フロー図のような感じで示されていたほうが良いかと思います。施設類型ごとに課題がいろいろと出てきて、それごとに次のステップに進んでいくので、いろいろな検討の流れが走りますよという、そのようなイメージがあると良いような気がします。

市古委員長

ありがとうございます。村井委員をはじめ、各委員の皆様が学校を中心とする公共施設について、より良いものに、でも財政的な困難さをどう乗り越えていくのかという、本当に強い関心といたしますか、担い手としての立場からご発言いただいていることに深く感謝申し上げたいと思います。

財政面ということで言うと、例えば使用料の問題をどのように考えるかとかいうことも、書くか書かないか。ただ、書くとこれは小金井市として出す文書ですが、この検討委員会、委員の方々の責任、この検討委員会としての立場というのもございます。どこまで書けるのか、書くとしたら覚悟が要るし、覚悟以上にデータときちんと精査していないといけないと思いました。

ただ、財政面をもっと強調したいならば例えばですが、民間活力導入との関係で、宮地楽器ホールの稼働率や実際の採算性などをコラムで入れるのも1つの考えかと思っておりました。

宮地楽器ホールは、あの規模にしては稼働率も悪くないというのはお聞きをしているところです。市民の方にとっても、それから市外の方、コンサートなどをするアーティストにとっても大事な場所

というようには認識されていると思います。

中谷委員

35 ページ、今後どのように書かれるかは分からないのですが、言っておかなければいけないと思う項目が、「新庁舎・(仮称) 新福祉社会館について、今後の事業進捗を踏まえ表現を調整します」と書いてあるので、どこかで表現が出るのかなと思っていたのですが、今日の段階では出ていないということなので、ここはいろいろな課題があって難しいということも重々承知していますが、何かしらを書くということをパブリックコメントのときにはやられるのでしょうかということと、その文面というのはどういう予定になるのかというのは検討委員会としては見ておく必要があるのかないのかも含めて皆さんと話をしたいなという気がしています。

庁舎が中町の真ん中にあり、新福祉社会館もそこにあって、そのエリアの独自性をもってそのエリアが成り立つという考え方は示されています。新庁舎・(仮称) 新福祉社会館ができようが、できまいが、言い方は難しいのですが、今後どのように配置をされるとしても、この考え方は生きてくるということです。それはそれで良いかと思いますが、今複合化を含めた再編の在り方について我々がこの委員会で検討しているところで、一方でそのような動きがあるということは現実であり、その現実を踏まえてどこまで記載するのか。この委員会でどのような話になったのかということは触れておかないといけないのではという思いがあります。差し障りのない範囲で書いて市民のパブリックコメントにも供するべきという思いがあり、そのような発言です。

市古委員長

ありがとうございます。35 ページにも表現を「調整します」と一応入っているわけです。ここを中谷委員からも、書けるところは、再編方針と整合するとか、再編方針に関連する内容面については表現を入れておくべきだというご指摘です。

いかがでしょうか。今日は鈴木委員がご欠席ですが。

中谷委員

鈴木委員がおっしゃっていたところなので非常に気にはなっています。一方で、行政の今の微妙な立ち位置といいますか、周りの

建築業界のお話も委員から出ているので書きづらいのはあると思うのですが、私は、そこは最終的には委員長、副委員長に一任とならざるを得ないと思っているし、それで良いと思っているのですが、何かしら会議録の中でもそのような議論があったということは残すべき、そのような思いです。

高橋庁舎建設等担当部長　　気になるところであるのはごもっともと思いますが、現状のスタンス、行政が今置かれている庁舎建設のスタンスであればこの表記で問題ないかと私は思っています。

これが大きく変わるようであると、言ってみればこの在り方再編方針だけではなくて、都市計画マスタープランや、市の諸計画、さまざまなものに影響が出てしまうので、私としてはそのような方向にならないように庁内調整をしているということだけは申し上げておきたいと思います。最終的にはトップの判断も入ると思いますので、そのようなことも踏まえても、今の「事業進捗を踏まえて表現を調整します」ということで、確定ではないですよという表現をさせていただいていると現時点ではご理解いただければと思います。

市古委員長　　ありがとうございます。私も23区内の1つの区と、それから神奈川県内の自治体の新庁舎のお手伝いをしており、どの自治体も建設費をどう捉えるか。普通に考えても上がっていつてしまう、下がる見込みはないという状況です。

そうなってくると、必要な機能は何なのか、削れるところはどこなのか、どこがコストカットできるのかという方向にどうしても傾いてしまいます。そうすると、例えば35ページに書かれている来訪のきっかけと、地域コミュニティ活動の場、このようなスペース、自由広場というか、玄関先のロビーもしくは吹き抜け空間とか、そのようなスペースが真っ先になくなるというのが、コストカットが示す意味なのです。でも、もともと基本計画・基本設計の段階で実現したい機能として入っていたというようにおさえておかないと、本当に必要な機能以外は取られてしまうというのが実態です。

ですので、このあたりを踏まえ地域コミュニティ活動の場ということで十分かどうかは別にしても、このような場所が真っ先に削られてしまいますので、そこのバランスでどのように表現をしておくかということを感じているところです。

小西委員

今の新庁舎の話に関連するのですが、市民は新庁舎がうまくいかない現実を目の当たりにしているわけなので、今の状況で他の公共施設に手をつけられるゆとりはないでしょうと、皆さん分かっているのではないかと思います。

それを踏まえると、46ページに書いている民間活力の活用、ここを頑張ってもらいたいというのが個人的には思うところで、一市民としては、小金井市一人の力でどうこうしようと思うのではなく、民間企業とのWinWinの関係を模索してほしいといえますか、民間企業がやりたいこと、動向を注視していただき、乗れるところには乗っていただきたいという思いがあります。そのあたりを少し入れていただけるとありがたいと思います。

村井委員

新庁舎に対する建設費と機能ですが、新庁舎にこの機能を入れることで、そこに集約するからこちら側が浮いていきますなど、複合的に考えて庁舎にはこのようなものが要りますという言い方ができるのであれば、流れも少し変わるのではないかと思います。新庁舎建設予定が、これからいつまでずれていくのか分かりませんが、方針に則って、複合化の実績一発目として新庁舎に近隣の施設の機能を複合化した実績となるのかと思いました。これからの状況を分からずに話をしていますが。

谷越委員

42ページ、④の「教職員への過度な負担とならないこと」というのは、過度な負担ではない負担というのはどういったものを想定されているのか気になったのですが。

郷古公共施設マネジメント推進担当課長 学校施設に何らかの機能が複合化される場合、その影響が全く生じないということは考えにくく、一定の変

化は避けられないものと認識しております。そうした変化に伴い、負担とまでは言えないまでも、これまでとは異なる対応や環境の変化が生じる可能性はあると考えております。一方で、教職員の働き方や子どもたちの授業環境、教育環境に著しい支障を及ぼすような、いわゆる「過度な負担」を与えることは適切ではないと考えております。学校教育の質や環境をしっかりと担保することを前提とし、その範囲を超えて教職員や児童・生徒に大きな影響を及ぼすような状況は避けるべきであるという趣旨です。そのため、「教職員への過度な負担とならないこと」という表現につきましては、全く負担が生じない状態を意味するものではなく、一定の環境変化やこれまでと異なる対応が生じる可能性はあるものの、教育活動に重大な支障を来すような水準にはならないことを意図して用いております。全く負担感がないと書くのはなかなか難しいかと思えます。

谷越委員

ありがとうございます。建築業界で、採用情報に例えば過度な働き方をしませんと書かれたら多分採用はすごく難しくなってくると思います。書き方を変えていただけたら変えてほしいとは思いました。

小西委員

私も今これを見ていて、「過度な負担とならない」ということは、適度な負担はありますとも読めるので、これは表現を工夫していただくだけでも少し印象が変わると思います。

増田委員

教員というと先生のことをさします。教職員というと、事務職員とか用務主事などの職員も含めて教職員という扱いです。

学校現場の代表としてここに出ていますので、この表現はどのような形であってもいいので、これは載せていただきたいと思っています。負担があるかないかと言ったら、それは今コミュニティ・スクールをやっていくにあたって、コミュニティ・スクールになる前からですが、例えば校庭や体育館の貸し借りの業務を教職員がやっています。本来授業に集中させていただきたいのですが、コミュニティ・スクール、地域に開かれた学校を作ろうと思えば、地域の

方に貸し出す窓口はどこかと言ったら市役所ではありません。この業務をやるのは学校ですから負担はあります。これを負担と考えるかどうかということなのですが、そのような実態はあります。

ただ、負担という表現にするかどうかはお任せしますが、あとは学校にお任せという感じにならずに、教職員の過度な負担にならないように考えていこうという内容の文はぜひ載せていただきたいと思っています。これは意見というより感想です。思いを申し上げました。

市古委員長

ありがとうございます。増田委員のご発言を十分に反映いただければありがたく思います。

中谷委員

今の話で行くと、負担という言い方を変えるのであれば、学校の運営に支障がないようにとか、やんわりとした形、学校の本来機能を損なわないとか、そのような言い方にしていくというのも1つの言葉の参考になればということで発言だけはしておきます。採用しなくても全然問題はないので、よろしくお願いいたします。

市古委員長

ありがとうございます。

谷越委員

学校の複合化が難しいということに関連して、私は勤務先でエネルギー関連の業務を担当しているのですが、会社として学校設備関連の仕事がほぼないです。それはなぜかというのと、教職員が設備の管理をやっているからというのがあり、どう自動化させようが、監視化させても、先生が既に対応してしまっているのです。負担やコストを下げることができないのです。そのため、自動化してしまうとすべてコストが上がってしまう部分があり、そのような意味でも、教職員に対してこれ以上の負担をかけないためにコストを増加しても設備を自動化していく、複合化していくという意味合いであれば良いのですが、財政面の負担があるから複合化をしていく、過度な負担がかからないようにするということ、先生に対しての負担を想定してしまいます。

教職員も既に施設管理の業務にかなり携わってしまっていると思うので、もう少し負担を減らす方向が複合化によってあると良いのではと思います。

讃岐副委員長

気持ちはすごく良く分かるのですが、そのことについて、④の内容がフォローしていないかという、僕はむしろフォローしているのではないかと前向きに捉えておりました。

というのは、先ほど事務局からも説明があったように、複合化することで新たに生じる何らかの役割というのは想定されるわけで、そうしたときに、あまり学校、学校と言いたくないのですが、何かを動かしたときに、管理を効率化するというときの手段として恐らく機械化とか自動化というものも選択肢に入ってくると思います。施設自体が複合化されるということは、何らかのお金の圧縮が生じると思うのですが、事務局が説明されたような新たな業務をする代わりに、仮に学校だとしたら、従来学校で先生方が担っていた施設管理の部分が多少やわらげていかなければいけないはずであって、それを「利用内容に応じた効率的な施設管理体制を整備する」というところで意味しているのではないかというようにも捉えられます。

どこまで谷越委員や増田委員やさまざまな意見をこの文章で包含するかということなのですが、私自身はそれほど違和感を持っていません、上手い答えにはならないのですが、一般的にはこれで大丈夫なのではないかと思っています。恐らく懸念の声も当然生じるし、これで十分だという声も生じると思うのですが、どちらにも対応できる文章になっているのではないかと思っています。個人的には大丈夫ではないかと思っています。

市古委員長

今のやり取りとは全く関係ないかもしれませんが、新庁舎の設計において1つ効率化という点ですが、文書の倉庫をなくすということで床面積が減るだろう。電算化ということがもたらす床面積の縮減の話とか、一人一人の書類を少なくすることによってという話はあたりします。

大学教育を見ても、コロナ禍を挟んで相当印刷物は縮減できましたし、学生とのコミュニケーションのやり方も相当進んできたというのはございます。

ですので、谷越委員がおっしゃった自動化、センサーを上手く使ってという話も大きく言うとIT化というか、DXみたいな視点がいろいろな形で効果を及ぼすみたいなところを少し加えていただくのもありかなと思ってお聞きをしておりました。

AIを使って教育をしようというのも当然のこととして、もちろん功罪もあるわけですが。

中谷委員

今の議論の具体的なイメージというのは、志木小学校に視察に行ったときに、小学校と図書館と公民館が一緒になっていて、校庭や使える図書館の図書コーナーというのが共用部分になっている。それを今までは学校は学校で、学校図書室とか学校の図書コーナーを管理していたものが、図書館の職員さんが管理するようになるとか、教室の貸し出しとか校庭の貸し出しについては、例えば公民館を含めて施設管理をするという、用務主事さんが今まで学校のことをやっていたものが、全体管理ということで建物が1つになるということで、それを効率的に管理するということで学校の負担が減る可能性もあります。それがOA化によってもっとシステムチックになればさらに負担が減るという可能性があると思えば、讃岐副委員長がおっしゃったような、利用内容によっては効率的な施設管理体制というのは可能であろうということになります。そこを例えばこれからパブリックコメントや、いろいろな議論をしたときに、そのような事例を具体的に説明して、疑問を持った方に説明できるようなことが我々の中で共有されていれば分かりやすくなるのかなと思います。それがひいては教職員の方々の負担が減るということにも繋がる可能性としてイメージされればこの表現でも、副委員長がおっしゃるような解釈ができると聞いていて思いました。

讃岐副委員長

中谷委員からフォローいただいたことと、それから振り返ると公民連携の部分で市古委員長がおっしゃっていたコラムでフォロー

するというアイデアを重層的に考えると、多少伝わりきらないというか、本文中だけでは説明しきれていないものについて、今回の枠組みではコラムという形でメッセージを発する形になっているわけです。

今議論があったポイントだったり、先ほどの公民連携のことだったりかもしれませんがもし可能なのであれば、コラムで書かれると、あくまで事例ですが、例えばこんなイメージがありますというメッセージになるので伝わりやすくなると想像しました。あくまで可能であればですが、あると良いかなと思った次第です。

村井委員

このような事業を行うときには、ミッションとビジョンとバリューという考え方をするかと思います。これはあくまでもビジョンをしっかりと示すものであって、ミッションはそんなに表に出さなくても良い、そのような認識でよろしいわけですね。

市古委員長

ありがとうございます。私からですが、24ページ、25ページ、ビジョンのところのとりまとめに関してですが、恐らく概要版を作るにしても図20の特に右側、6つのアイコン付きのダイアグラム、これは必ず採用されるかなと思っています。

そのときに、もう一度ビジョンを見ていきますと、①と②と⑤と⑥は割と言葉がしっかりと伝わる表現だと思っています。居場所となる場というのが議論してきた、つながらないことも得られる、一人になれる居場所でもあるというのが①の交流・つながりの場とは差異化されるといいますか、ビジョンの2つ目として入れているということも含めて、①、②、⑤、⑥についてはストレートに伝わるとしています。

③と④ですが、③は柔軟に使える場というところに重点があるのかと思いきや、各施設の核となる役割は担保するのだという、ここが一番土台となるところかと思っています。むしろ柔軟に使える、フレキシビリティというところは④で受けるべきということです。③と④をビジョンの1つ1つとして独立させるとすると、③は核となる役割は引き続き担保する、出発点とする、揺るがせないということ

と、でも④では催し物によってスペースそのものも壁の移動とかで
広くなったり分けたりという、構造的なところを含めて社会の多様
なニーズに対応させていくということです。もしそうであるならば、
そのように強調していただいたほうが良いのではないかと感じて
いました。

さらに、そうであるならば、図20のアイコンの既存の目的を生
かしながら柔軟に使える場、これはダンスをしているのでしょうか。
ちょっと分からないのですが、ここのアイコンは核となる役割とい
うことをきちんと表すようなアイコンにさせていただくほうが良い
のではないのでしょうか。このダンスしているアイコンはむしろ対角
線にある社会ニーズに合わせて変化・対応していける場のアイコン
であっても良いのでは、そのように思っていたところです。いかが
ですか。

6つのビジョンはとても大事ですし、かつ、このビジョンがキー
ワードでその後の章がずっと踏襲できる、受けることができると良
いと思います。すなわち①は交流・つながり、②は居場所、⑤は地
域防災、⑥は行政サービス、この4つのビジョンのキーワード、4
つのビジョンのワーディングとして表現できるとすると、③と④に
ついては、③は核となる役割を基本とするとか、④については多様
なニーズに合わせる、多様なニーズ対応とかいう項目にして、今
「何々の場」というように表現いただいているのですが、2章、3
章、4章でもう一度受けていくには、先ほどの議論の中でも学校施
設について40ページでどう受けるのかという議論もございましたが、
ここでの引用とか受けやすさという点から見ても、場合によ
っては必ずしも「何々の場」という表現に固執せずとも、公共施設
が目指すビジョンを表すシンボリックな表現として整えていただく
のも良いかと思っていました。

郷古公共施設マネジメント推進担当課長 ビジョンの考え方として、事務局からこ
れまでの経過を踏まえて説明させていただきます。

まず、③の既存の目的を活かしながら柔軟に使える場というところ
の重きを置いているところは、後者の柔軟に使える場というところ

ろです。この③は、初めは「目的によらない自由に利用できる場」とご提案させていただいておりましたが、学校施設を自由に利用できる場としてフレキシブルに使うのはどうかというご意見が出されてきた中で、既存の目的を活かしつつも、柔軟に使えるところは使っていきたいと思いますという方向性で整理を行い、柔軟に使える場というところを重視してきたかと認識しています。

それから、④のところは、委員長からご紹介がありましたが、ハード面で対応していきましょうというご意見があった中で③と分けてきたところがあります。このような経過を踏まえて現在のビジョンがありますので、イラストについても柔軟に使えるイメージをアイコンとしてご用意しております。事務局としてはそのような認識でご提案させていただいています。

市古委員長

了解です。これまでの経過を踏まえての判断というのも理にかなっているかと思えますので、意見として発言させていただきました。

讃岐副委員長

1つだけいいですか。増田委員に伺いたいのですが、今25ページの話題があったときに気づいて、居場所となる場というのは、場となる場というふうに読めなくもないと思ったのですが、日本語表現としてこれは正しいでしょうか。

増田委員

これはぜひ国語の専門の先生に聞いていただきたいと思いますが、「居場所になる場」という言い方をしていることは、あると思います。

讃岐副委員長

もし委員長がおっしゃるように、「場」という終わり方にこだわらなくて良いのであれば、むしろ一人一人の居場所という書き方のほうがすんなりと読めるかと想像しました。それを言いだすとあらゆる場をこうしたらいいのでは、みたいな欲求が出てきてしまうのですが、②については日本語の表現としてあまり相応しくないような気もしたので尋ねてみました。

市古委員長 25ページの表現が一番この文章の心臓部分ですので、ありがとうございます。

事務局に確認ですが、この後、パブリックコメント、それから最終の検討委員会を経て方針の策定となりますが、最終版には市長の挨拶文は入るのですか。

郷古公共施設マネジメント推進担当課長 現状、市長挨拶を入れるかどうかは決めていません。

市古委員長 趣旨としては、委員の皆様で議論してきた中で、「おわりに」のところで委員一人一人にご意見をいただく。もちろん希望される委員だけで結構だと思うのですが、一言ずつこの再編方針に対しての立場ですとか期待することとかを入れていただくのも良いかと思った次第です。この方針について熱い思いを持って今日も議論いただきましたので、何か「おわりに」のところで委員のコメントを入れていくというのは、住民参加、市民参加を重視される小金井市の市政の在り方にも合致しているのかと思います、このような発言をしました。私は議論の中で感じた、今後このようなところをぜひ大切にしていけると良いですよというメッセージは入れようかと思っていました。讃岐副委員長いかがですか。

讃岐副委員長 可能です。

市古委員長 100字、200字程度で良いかと思うのですが。突然で申し訳ないのですが、事務局に確認ですが、そのあたりは可能ですか。

郷古公共施設マネジメント推進担当課長 特別ルールはないかと思いますが、可能かと思います。方針や計画とは違いますが、教育委員会で作成している教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価報告書というのがあるのですが、そこには点検及び評価に係る学識経験者の意見が記載されています。

市古委員長

ぜひご検討いただいて、スケジュール感も事務局から委員の皆さんにお伝えください。

また、あえて市長の挨拶と申し上げたのは、普通このような計画等には市長挨拶はパブリックコメントの段階ではないことが多いです。ですから、パブリックコメントの後の最後の検討委員会のところで原稿を持ってきていただければ間に合うというような段取りも見据えてのご提案でありました。もちろん名前が出るとしたらというのがありますので、原則、学識の先生方にはしっかりコメントいただいたほうが良いかなというのが個人的な出発点でありました。

小西委員

今のご提案に対してですが、この委員会として文を載せるというのはどうですか。委員それぞれのコメントを載せてしまうと、結局それぞれ見ている方向が違ったりして、結構バラバラなものになってしまうような気がして受け取り方が難しくなってしまうかと思いました。委員会としてのまとめというか、委員会としてのコメントを出されるほうがよろしいかと思いました。

市古委員長

それだと多分僕の負担が格段に。そういう進め方もあるかなと思います、そうすると、委員の皆様から一言まずはいただいて、それを僕のほうで再編集をしないとよろしくないかと思います。私が議事録を全て読んで、各委員がこのようなコンセプトでご発言いただいたというのを読み取って委員会としての所感を書くということもなくはないのですが、スケジュール的には各委員から入れていただける方は入れていただくぐらいのやり方が良いのではないかと思います。またスケジュール的にも次回の委員会までに原稿を、前日ぐらいまでに入れていただいてこの場で共有して、もう一度それぞれ修正いただいて、最終版にするぐらいのスケジュールが一番ありがたいと思っていますが、小西委員からご指摘いただきまして、僕は皆さん方の意見をきちんと解釈させていただいて書きたいと思いました。ありがとうございます。

讃岐副委員長 パブリックコメント後ですよ。難しい判断ですね。

市古委員長 そうですね。まずはご提案です。それでは、質疑はこのあたりで終了させていただければと思います。委員の皆様、ありがとうございました。本日いただいたご意見等を踏まえ、今後事務局にて修正等を行っていただき、来年1月にパブリックコメントにかけることを予定しております。委員の皆様には事前に情報提供をお願いできればと思います。

次に、議事のその他として、次回の開催日について、事務局より説明をお願いいたします。

郷古公共施設マネジメント推進担当課長 それでは次回の開催日について説明させていただきます。

次回、第9回、最終回になりますが、1月に実施を予定しているパブリックコメント後の3月上旬にお願いさせていただければと思っております。詳細な日程調整は後日メールにて調整をさせていただきますので、よろしく申し上げます。説明は以上になります。

市古委員長 それでは次回の開催は後日調整とさせていただきます。

本日の議事はこれですべて終了でございます。これをもって閉会といたします。皆さん年末のところ大変お疲れさまでした。ありがとうございました。

(11時00分閉会)